青谷町版総合戦略進捗状況

資料3

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
1	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	各地区まちづくりリーダーの発掘	地域リーダーの発掘と育成	みんなで楽しく取り組むまちづくり	地区公民館・まちづくり協議会	少子高齢化が進み、地域の行事の参加が少なく、まちづくりがなかなか進まない。	地区公民館、まちづくり協議会が実施している事業を通じて、まちづくりとリーダーの発掘に取り組む。 とっとり県民活動活性化センターと連携し、まちづくりに携わる人・団体への支援を行う。	平成30年度にIloveあおや37メンバーズが「イラストレーションによるまちづくり」フォーラムを開催し、令和元年度は地域のイラストレーターと連携したガイドマップを制作。 平成30年2月にとっとり県民活動活性化センターと地域団体の座談会を開催。 空家を活用したにぎわい作りに取り組むグループの育成。 その他、各地区公民館・まちづくり協議会と連携し人材発掘を進めていく。
2	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	地域活動への参加意識	地区公民館の役割の再構築	環境整備事業数：３事業	地区公民館・まちづくり協議会	各地区公民館・まちづくり協議会で、年間を通じ、各団体等との合同により環境整備活動(草刈等)を実施している。	各地区公民館・まちづくり協議会で、年間を通じて環境整備活動（草刈等）を実施していく。	【日置地区公民館】　老人クラブ清掃（6月・8月） 【日置地区まちづくり協議会】　環境整備（4月・7月・9月）、そば畑環境整備（5月・6月・8月）、グランド整備（9月）、三極苗植付け（11月）、日置川クリーン作戦（3月）、芝桜苗植付け（3月） 【日置谷地区公民館・まち協】　あじさいロード草刈(5・7・10月)、公民館周辺・グラウンド環境整備（6・9月） 【勝部地区公民館】　寿会草刈（6月・10月）、剪定教室&ボランティア募集（10月） 【勝部地域まちづくり協議会】　不動谷川草刈（7月・１０月） 【中郷地区公民館・まち協】　中郷地区景観づくり活動(6月)、中郷グラウンド整備(9月)、中郷庭園環境整備（3月） 【青谷地区公民館】　日置川土堤草刈（6月・11月）、ようこそ広場花壇の花植え（4月・10月） 【青谷地区まちづくり協議会】　題目塔草取り（7月）
3	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	地域活動への参加意識	地区座談会の開催	年2回開催（情報共有の機会増）	地区公民館・まちづくり協議会	平成２６年度から2年間は、開催要望のある地区のみ開催してきたが、市民への情報提供の機会の増加が必要である。	地区座談会の開催のほか、各地区区長会長やまちづくり協議会、各種団体等を対象とし、鳥取市が実施している「出前講座」等を積極的にPRし、地域住民への情報提供の増加を図る。	地区座談会開催状況 平成29年度：日置谷地区を除く4地区で地区座談会を開催 平成30年度：中郷地区を除く4地区で座談会開催。日置41人（9/4）、日置谷36人（8/20）、勝部16人（10/15）、青谷22人（8/9）。 令和元年度：日置43人（6/11）、日置谷43人（6/14）、勝部12人（6/12）、中郷２３人（7/3）、青谷４０人（6/18） 各地区で「地区を語る会」も開催。
4	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	地域活動への参加意識	スーパーボランティアの促進（アダプト制度）	各地区１団体	地区公民館・まちづくり協議会	市、県が管理する道路、河川、公園等の環境美化については、すべてに維持管理が行き届いていないところである。 地域住民が地域の実情に応じて環境保全や美化活動などを行い、地域にふさわしい環境づくりを進めていく必要がある。	鳥取市「道路愛護活動にかかるアダプト事業」と鳥取県実施の「鳥取版河川・道路ボランティア促進事業」を活用し、道路、河川の保全や美化に、市民が積極的に参加していただくように市報等を利用し制度の周知を図る。	＜参画型ボランティア＞　小畑を愛する会（H24）、山根部落（H23）、早牛を美しくする会（H24）、日置川を美しくする会（H17）、日置谷“幸せの里”づくり協議会（H21）、青谷の川をきれいにする駅前区の会（H16）、本町区（H21） ＜協働型ボランティア＞　河原区の河川や環境を守る会（H23）、大坪元気組（H22）、奥崎のちょこっと15、栄町自治会 ＜スーパーボランティア＞　勝部地域まちづくり協議会（H25）
5	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	地域の宝は地域が育てる	青中地域創造学校	目指す子どもの姿	創造学校・地域	青谷中学校区地域創造学校運営協議会がフォーラムや講演会などを実施。	引き続き青谷中学校区地域創造学校運営協議会主体となって「ふるさとを思い　志をもつ子」を育てていく。青少年育成青谷町地区協議会と連携し、小中学生に青谷の自然の中で体験活動する機会や地域活動に参加する機会を提供し、それが高校生や大人になっても継続するよう図る。	①地域創造学校　活動を継続 ②青少年育成青谷町地区協議会　青谷地域子ども交流会、清掃ボランティア活動、マナーアップさわやか運動

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
6	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	祭事や伝統文化の継承	高齢者、団塊の世代の協力	青谷学の開催	老人クラブ	地域の祭事や伝統文化について、若い世代の意識では、関心が低い・由来を理解していないなどの理由で継承しなかったり、規模を縮小する傾向が高くなってきている。 また、子どもたちや若者の減少により、行事が継承できないことにもつながっている。	子ども行事であっても、保護者だけでなく、地域の方が協力していく行事として、文化を継承していく。 地域の老人クラブ等の高齢者の集まりの中で、昔語りを取り入れ、祭事や伝統文化の大切さを認識し、地域住民への啓発活動につなげる。	各地区公民館では、節分の豆まき、ちまきづくり、勝部岩力おどり、日置はねそ踊りの練習会等、子どもたちに参加を呼びかけて実施している。この事業は、地域の老人クラブや保存会等の協力で実施している。
7	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	祭事や伝統文化の継承	子ども世代の地域活動参加	ルール・マナー・伝統等の伝承	地区公民館・集落	地域の催事や伝統文化について、若い世代の意識では、関心が低い・由来を理解していないなどの理由で継承しなかったり、規模を縮小する傾向が高くなってきている。	同様の行事を実施している集落を、地区公民館などが中心となって情報交換会を開く。 また、高齢者等から伝統行事についての解説や、自分の思い出話を子どもたちに話してもらう。	ウォーキングや探訪で地域の風物を観察し、地元の方の解説を聞く機会を設けている地区もある。 青谷菖蒲綱引きは、連合保存会での活動はないが、各集落保存会で事業を継続実施している。
8	Ⅰ　地域コミュニティを核とした“ひとづくり”	1．地域コミュニティの充実	祭事や伝統文化の継承	集落単独実施から複数集落実施への移行	合同実施による継承・意識啓発	地区公民館・集落	子ども等、祭事等の運営主体が少人数化している。運営主体の人数を確保するため、地域住民全体で実施しようと取り組む集落もある。	同様の行事を実施している集落を、地区公民館が中心となって情報交換会を開く。 伝統行事等を伝承している集落から、周辺の集落に見学や参加を呼び掛ける。	各集落では、とんどさん・いのこさん・村祭り・盆踊り等が継続して行われている。 青谷菖蒲綱引きは、連合保存会での活動はないが、各集落保存会で事業を継続実施している。
9	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	青谷賑わい広場整備	駐車場整備（ウェルネス前）	平成26年度	都市企画課	地区内の居住人口は、著しい減少が続いており、少子化・高齢化とともに鳥取市の中でも進行の度合いが高くなっている。また、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	地域コミュニティの活性化を図るため、青谷駅に近い公共空地（旧岸本三光堂跡地）に商業施設の集積を図り、にぎわい・活気のある空間として整備する。 商業集積地の駐車場整備により利用者の利便性を向上し、人が気軽に立ち寄ることができる賑わい空間の創出とイベント時に広場として活用を促す。 青谷賑わいの場整備（地域生活基盤施設） 駐車場整備等 A=2,200㎡	平成26年度　実施設計・駐車場工事　事業費　20,000千円　実施済
10	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	青谷中央広場（仮称）整備	広場整備等（解体・整備）	広場整備等	都市企画課	地区内の居住人口は、著しい減少が続いており、少子化・高齢化とともに鳥取市の中でも進行の度合いが高くなっている。また、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	地域コミュニティの活性化を図るため、旧青谷町中央公民館を取り壊して広場の整備を行い、また福井田川親水護岸整備と併せて青谷地区の憩いの場として、誰もが立ち寄れて憩うことができる空間の整備を行う。 青谷中央広場（仮称）整備（高質空間形成施設）　広場整備等 A=3,700㎡	平成26年度　広場設計　事業費　5,000千円 平成27年度　建物解体設計　事業費　3,000千円 平成28年度　建物解体工事　事業費　41,000千円 平成29年度　建物解体工事　事業費　38,000千円 平成30年度　広場整備　事業費　35,100千円（当初） 令和元年度　完成　（張芝・植栽等の整備、　東屋・駐車場の設置） 名称：ようこそ広場
11	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	福井田川親水護岸整備	親水護岸整備	親水護岸整備	都市企画課	地区内の居住人口は、著しい減少が続いており、少子化・高齢化とともに鳥取市の中でも進行の度合いが高くなっている。また、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	地域コミュニティの活性化を図るため、旧青谷町中央公民館跡地の広場整備に併せて福井田川親水護岸整備を行い、青谷地区の憩いの場として誰もが立ち寄れて憩うことができる空間の整備を行う。 福井田川親水護岸整備（高質空間形成施設） L= 100m	平成27年度　実施設計　3,000千円 平成28年度　第１期工事　6,000千円 平成30年度　第２期工事　10,000千円（植栽・舗装など） 平成30年度　完了（植栽、舗装など）

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
12	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	JR青谷駅前広場整備	駅前広場整備	駅前広場整備	都市企画課	JR青谷駅前地区は、旧青谷町の交通、商業など地域コミュニティの中心となってきた。しかし、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	地域コミュニティの活性化策として、青谷地域の中心地であるJR青谷駅広場を歩行者、自動車の寄り付きやすい空間として整備を行う。	平成28年度　実施設計 平成29年度　工事施工 （JR青谷駅前広場整備事業（地域生活基盤施設）　A=1,400m2 事業費　27,000千円） 平成30年度　.5/.22～9/10　JR青谷駅前広場整備（１工区）6,566,千円（繰り越し） 10月～　JR青谷駅前広場整備（2工区）15,000千円（現年） 令和元年8月　　歩道・バス待機場所等の整備 令和元年10月　　完成　事業費　25,586千円
13	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	JR青谷駅前広場整備	バス待合所・公衆トイレ等（駅前青谷駐在所跡地活用）	バス待合所・公衆トイレ等整備	都市企画課	JR青谷駅前地区は、旧青谷町の交通、商業など地域コミュニティの中心となってきた。しかし、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	青谷駅周辺の地域コミュニティの活性化を図るためJR青谷駅前広場にバス待合所や公衆トイレを設置し、人や車が立ち寄ることができる空間の整備を行う。	平成29年度　実施設計 平成30年度　工事施工　（H30.7発注） （JR青谷駅前バス待合所整備事業（高質空間形成施設）　　事業費27,000千円） 令和元年6月　完成　バス待合所、観光案内、トイレ（男・女・多目的）の整備
14	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	照明灯整備	LED照明灯整備（日置川沿）	LED照明灯整備	都市企画課	JR青谷駅前地区は、旧青谷町の交通、商業など地域コミュニティの中心となってきた。しかし、人口流出による空き家や空き店舗が増加している。	日置川から勝部川河口にかけた自然風景に青谷特産の和紙を融合させた修景整備を行う。まちの魅力をアピールすると共に地域の憩いの散策コースとしての整備を進める。	事業の中止
15	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	東町排水ポンプ整備	排水ポンプの増強	排水ポンプの増強	都市企画課	青谷町東町の一部では、土地が低い上に地盤が弱く、福井田川からの流水もあることから、大雨の際に住民は浸水の恐れに悩まされている。ポンプを整備してからは、以前よりは解消されてはきたが、まだ十分とは言えず、抜本的な整備とポンプの増設が望まれている。	福井田川からの流水を止め、また他水路からの流水を防ぐための防護壁を造るとともに、新たな排水路の整備と排水ポンプを新設することで、集水効率と排水能力の向上を図る。	平成30年8月　　工事発注 排水ポンプ増設事業 　水路工：L＝206.2m　水中ポンプ：1基、制御盤：1基、吐出管：L＝24m 令和元年11月　完成　事業費55,122千円
16	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	企業誘致	西部地域への企業誘致	山陰道（鳥取西道路）開通後の立地としての魅力アップ	企業立地・支援課	西部地域では、一段と人口減少が進み地域活力の低下などが顕在化しつつあり、地域の活性化を図るためには若者等が働く場の確保が重要な課題となっている。しかし、近年は企業誘致の実績が少ない。鳥取西道路の開通をにらんで、平成27年8月20日「鳥取市西部地域への企業誘致」について、三町の地域振興会議会長名で市長へ意見書を提出している。	平成３１年に山陰道鳥取西道路が開通する予定となっており、交通アクセスが飛躍的に向上する機会をとらえ、西部地域に新たな工業団地の整備を検討する。	企業立地・支援課が主となり、西部地域三町で候補地をピックアップし、工業団地造成における諸課題に対する関係課の意見聴取を行いながら、候補地を検討している。
17	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	1．地域生活拠点の整備	企業誘致	鳥取森田跡地活用	継続的な招致	企業立地・支援課	昭和４２年に旧青谷町に進出し、約４６年間にわたって青谷地域の地域振興や雇用の確保に貢献してきた鳥取森田㈱が平成２５年１０月に閉鎖され、現在に至っている。	所在地はJR青谷駅に近接し、また青谷駅南工業団地にあり、利便性がよい。ここに企業を誘致し、地域の雇用の確保を図る。	現段階では動きなし
18	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2．地場産業の育成	農林漁業の活性化	後継者育成	新規就業者数：5人	JA・漁協・農業公社	漁業では、平成26年度、鳥取県漁協夏泊支所で定置網漁が操業開始。現在6名が就業されている。※うち、平成30年度に20代の方1名が新規就業された。 引き続き若者就業者の確保が必要である。 農業でも、高齢化と後継者・担い手不足から耕作放棄地が増加しており、今後の農地の荒廃等が心配される。	Iターン、またはUターンの方が農林漁業への関心が高い傾向があるので、農政企画課、林務水産課、地域振興課等と連携を図りながら対象者への支援、対応をしていく。	平成30年度より20代の方1名が夏泊定置網漁の漁業者として新規就業した。 平成28年度から研修中の就農舎（農業公社）の農業現地研修生2名が、平成30年4月と同年7月に就農した。 アグリスタート（鳥取県農業担い手育成機構）の研修生１人が平成31年1月に町内で就農した。 平成30年4月から地域おこし協力隊員1名が、しいたけ栽培の後継者として研修を行ったが令和2年3月までの2年間で終了となった。

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
19	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2. 地場産業の育成	青谷因州和紙産地強化事業関連（ようこそまつりの見直し関連）	因州青谷こうぞ紙手すき和紙保存会の活性化後継者育成	ユネスコ世界文化遺産登録 産地のイメージアップ	実行委員会	因州和紙は、近年手すき和紙事業者が激減し、産地としての存続と後継者の育成が喫緊の課題となっている。こうした中、鳥取県指定無形文化財「因州青谷こうぞ紙」の保持団体である「因州青谷こうぞ紙手すき和紙保存会」が、平成27年度活動を再開した。	平成28年度から青谷地域にぎわい創出実行委員会青谷因州和紙産地強化事業部会を中心に事業を実施する。 1　因州青谷こうぞ紙手すき和紙保存事業 ①　和紙の原材料となる楮の試験栽培 2　因州和紙PRイベント開催＆情報発信事業 ①　市内イベントへのブース設置による因州和紙のPR ②「因州和紙フェスタ＆ひおき収穫祭」の開催	○平成28年度実績：「手すき和紙伝統技術研修会」 月23日、3月4日、「因州和紙フォーラム」 10月15日、「因州和紙フェスタ＆ひおき収穫祭」 11月20日 ○平成29年度事業実績：「手すき和紙伝統技術研修会」 9月5日他、「因州和紙フェスタ＆ひおき収穫祭」 11月19日　600人、 他イベントPRブース設置　4回 ○平成30年度実績：「手すき和紙保存事業」楮の試験栽培　あおや和紙工房、「因州和紙フェスタ＆ひおき収穫祭」 11月11日　あおや和紙工房　日置体育館、他イベントPRブース設置 ○令和元年度実績：「手すき和紙保存事業」楮の試験栽培　あおや和紙工房、「因州和紙フェスタ＆ひおき収穫祭」 11月17日　あおや和紙工房　日置体育館、他イベントPRブース設置
20	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2. 地場産業の育成	青谷因州和紙産地強化事業関連（ようこそまつりの見直し関連）	和紙の活用・コラボ「和紙と雑貨」「和紙と民宿」	新たな構想の発信・起業支援	市民・団体	「青谷地域」として、因州和紙の新たな活用方法の認識は低い。	生活の中に和紙を活かす取り組みが期待される。例えば、個人の住宅や空き家での和紙製品等の活用を図り、PRに繋げていく。現在、青谷因州和紙産地強化事業として和紙の活用等を含めて取り組んでおり、この中で検討する。	≪参考≫青谷高校が因州和紙を使ったちぎり絵壁画を制作し、JR青谷駅構内に設置して、通過する観光列車「あめつち」の乗客にアピールする取組を進めている。 （令和2年2月～設置）
21	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2. 地場産業の育成	ジオ関連ガイド、産業の発掘	ジオガイドの育成	ジオガイド数：10人	団体	青谷町ガイドネットワークが平成28年3月17日に設立され、会員個々で観光客等を中心にガイド活動を行っている。	ジオパーク及びガイド関連の組織との連携、ネットワークの例会を重ねることで会の活動を充実させるとともにガイドの育成を行っていく。 また、補助事業等を利用しイベントの実施を計画していく。	ガイドネットワーク会員7名。 ガイドネットワークは情報交換のため、2か月に1回例会を開催。
22	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2. 地場産業の育成	歴史的資源の活用	青谷上寺地遺跡の保存活用	交流人口の拡大	団体	青谷上寺地遺跡展示館で、遺物等の展示や関連事業を実施している。 鳥取県埋蔵文化財センターは、調査研究だけでなく土曜講座を開くなど啓発活動に努めている。 また、鳥取県と鳥取市が協働して設置した史跡青谷上寺地遺跡保存活用協議会は、青谷上寺地遺跡展示館を拠点として啓発活動に努めている。 令和元年度以降史跡公園の実施設計および整備工事に着手する予定である。	青谷上寺地遺跡の史跡整備等について、広く地域の声を聞き、基本計画の見直しと基本設計に結び付ける。 青谷上寺地遺跡展示館と保存活用協議会等の団体間の連携を密にし、啓発活動に努める。 史跡整備に併せ、地域として遺跡の魅力向上に参画し、活性化へつなげるため組織「上寺地遺跡応援団」の養成するため、ものづくり等の講座を開催する。	平成28年度から組織された「とっとり弥生の王国調査整備活用委員会」に総合支所としてオブザーバー参加するとともに、地元青谷から2名の委員に参画してもらい、青谷上寺地遺跡整備の詳細な基本計画策定に取り組んだ。 青谷上寺地遺跡展示館と青谷上寺地遺跡史跡保存活用協議会は、それぞれ事業を実施し、啓発活動に努めている。 平成30年度から青谷上寺地遺跡ガイド養成講座、ものづくり講座を開催（計4回）、11名が受講。 令和元年度は青谷上寺地遺跡ボランティア講座（計10回）を実施、14名が受講。
23	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	2. 地場産業の育成	団塊の世代によるまちづくり	元気塾への参加など中高年の経験や知識の活用	組織化数：3団体	市民・団体	鳥取市では、平成23年度から地域リーダーの掘りおこし、人材育成のために、とっとりふるさと元気塾の活動を実施している。	平成30年度とっとりふるさと元気塾で10回の開講予定があり、歴代参加者および地区公民館へ周知していく。 地域別講座として、長和瀬と駅前地区での実施を検討していく。	ふるさと元気塾も9年目（最終年度）となり、取組みの総括が進められた。 平成30年度青谷地域内で2回（8月：民泊、1月：防災）開催し、今後のまちづくりの取組について意見交換を行った。 令和元年度は3回（6月：防災、7月：けん玉、8月：北前船）実施し、まちづくりの新たな手法について話し合った。 受講した講座を活かした新たなまちづくりが推進できるよう、働きかけを行った。

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
24	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3．地域活性化イベントの再構築	青谷ようこそ市場（通称：あおいち）の開催（ようこそまつりの見直し関連）	駅前賑わいの場での開催（6月～11月毎月1回定期開催）	入込客1,000人 特別イベント等の開催による集客	実行委員会	青谷ようこそまつりは、マンネリ化し、集客数が3,000人を下回っており、イベントの見直しが必要である。	定期的なイベントとして「あおいち」を年5回開催し、地域の活性化を図る。 地域の魅力をブラッシュアップし、地域資源を持つグループが主体となってイベント実施できるように支援していく。 青谷高校と連携してイベント運営、ボランティア参加を図る。また、イベント運営・ボランティアを連携し、かちべ伝承館ほか地域資源のPRできる会場での開催を計画。	平成28年度実績 6月12日：青谷ようこそ館前600人、8月11日：夏泊漁港400人、9月11日：夏泊漁港600人、10月9日：青谷ようこそ館前600人、11月27日：ようこそ館前300人 平成29年度実績 6月4日：青谷ようこそ館前1,500人、7月2日：夏泊漁港800人、8月11日：夏泊漁港500人、9月3日：青谷ようこそ館前500人、10月1日：青谷ようこそ館前1,000人 平成30年度実績 6月3日：青谷ようこそ館800人、7月1日：夏泊漁港1000人、8月5日：かちべ伝承館800人、9月2日：総合支所1000人、10月7日：中止、11月24日：ウォーキング200人、12月15日：青谷ようこそ館500人 令和元年度実績 6月2日：青谷ようこそ館800人、7月7日：夏泊漁港1200人、8月4日：かちべ伝承館1000人、9月1日：ようこそ広場1200人、10月6日：総合支所1200人、12月15日：青谷ようこそ館300人
25	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3．地域活性化イベントの再構築	青谷ようこそ市場（通称：あおいち）の開催（ようこそまつりの見直し関連）	まちなかギャラリー発掘	ギャラリー3ヶ所	実行委員会・団体	青谷ようこそまつりの見直しに伴い、市民のギャラリー展示スペースの整備を検討している。西商工会青谷会館での展示を予定。空き家、空き店舗等の確保が難しい。	「あおいち」開催に合わせ、青谷町文化協議会展示系の出展以外にも広く一般に出展者を募集し、西商工会青谷会館を利用し、「あおいちギャラリー」を開催する。	平成28年度事業実績 あおいちギャラリー　11月23日～27日　西商工会青谷会館　156人 平成29年度事業実績 あおいちギャラリー　9月27日～10月3日　西商工会青谷会館・青谷地区公民館281人 平成30年度事業実績 あおいちギャラリー　8月31日～9月2日　あおや郷土館　368人 令和元年度事業実績 あおいちギャラリー　9月14日～10月6日　あおや郷土館　926人
26	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3．地域活性化イベントの再構築	夏泊朝市の継続	定置網による鮮魚販売	定置網による鮮魚販売	夏泊漁協	平成26年度より夏泊漁港で操業開始した定置網漁に伴い、荷揚場にて朝市も開始。年々入込客数が増えている。 入込客のほとんどが地元住民であり、今後地区外への周知が必要である。	入込客数については、増加傾向であるため、更に内容を充実させ、PRを継続させていく。	時化等の影響により漁ができない日が続くことがあったが、あおいち以外の通常では平日約50人、土日約100人の入込客があった。5月連休時は200人からの入込客があった。 多くのお客様に購入いただけるよう宅配便を用意したが、2～3件程度の利用であった。 令和元年度（4月～11月末　毎週金曜日定休日、月1回定休日）
27	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3．地域活性化イベントの再構築	夏泊朝市の継続	あおいちとの連携	入込客500人	商工会・各種団体・夏泊漁協	平成28年度より「あおいち」が、年6回開催しているが、そのうち年1、2回を夏泊で開催している。	平成26年度より実施している夏泊定置網朝市とのコラボによる相乗効果により集客を図る。また、PRを継続して実施し、入込客数1,000人の目標を達成させる。 山陰道が開通することにより、県外からの入込客の増加が見込まれ、それに合わせたPRが必要。	平成28年度から、青谷ようこそ市場（通称：あおいち）が開催され、年6回のうち2回を夏泊漁港で開催した。 あおいち開催日は来場者も多く大盛況であり、平成30年度も目標の入込客数が達成できた。 令和元年度あおいち開催の入込客数は1,200人であり目標の入込客数を達成できた。
28	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3．地域活性化イベントの再構築	マリンイベント	サーフィン・スタンドアップパドルボードイベントの開催	年2回	団体	青谷地域活性化推進事業である青谷地域づくり連絡協議会主催の新規事業として、スタンドアップパドルボード体験を実施し、青谷の海で体験できるジオサイト水上スポーツとして定着することをめざす。	年2～3回開催予定。場所は井手ヶ浜海岸、青谷海岸および勝部川のいずれか。1回につき12人程度募集し、インストラクターによる指導のもと、スタンドアップパドルボードを体験する。初心者にもできる水上スポーツとしてPRを図り、定着することをめざす。	平成28年度　8月に井手ヶ浜海岸で実施した（9月は悪天候により中止）。 平成29年度　年3回、7月と8月に単独イベントとして勝部川で実施した。また、9月の「あおや鳴り砂ビーチフェスタ」の中で開催した。 平成30年度　7月22日、8月19日に単独イベントとして実施。9月9日の鳴り砂ビーチフェスタは荒天のため中止。 令和元年度　（SUP）7月15日単独イベント、9月1日にあおいちとの共催で実施。鳴り砂ビーチフェスタは8月18日に開催。
29	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3．地域活性化イベントの再構築	クラウドファンディング活用	井手ケ浜多目的広場活用	企画の整理・調整	民間	この広場は市有地であり、現在はトイレ・水道が設置され、サーファーなどが利用している。	この広場も含め、クラウドファンディングを青谷地域で推進するためのノウハウを習得し、PRを図る。	現段階では動きなし。

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
30	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	フットパスの開催	素材を活かした各地区別のウォーキングコース設定	各地区既存コースをミニフットパスとしてPR こばしまウォーキングの充実 石碑・川六作品探索コース	地区公民館・まちづくり協議会・民間団体	主催はこばしまウォーキング実行委員会。主管は鳥取市体育協会青谷町支部、青谷町健康づくり地区推進員会、青谷スポーツクラブ。青谷町健康づくり地区推進員会が作成した「あおやふれあいウォーキングマップ」をもとにコースを設定している。	「こばしまウォーキング」として5地区全てで開催し、地域の素材を活かしたコースを設定する。	令和元年度のこばしまウォーキングは、青谷地区で10月27日に開催。昨年度全地区で開催が達成され、2順目に入った。来年度は勝部地区で開催予定。
31	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	3. 地域活性化イベントの再構築	西因幡グランドデザインとの連携	道の駅への運営参画	出店参加団体との早期調整	民間	道の駅の名称が「西いなば気楽里（きらり）」と決定し、平成３１年６月オープン予定。	道の駅の指定管理者と協力し、青谷地域の産品の調整等、必要に応じて対応していく。	鳥取西いなばまちづくり会社が道の駅の指定管理者となり、出品者の募集等を行っている。 令和元年６月に道の駅がオープンし、地域の事業者が出展販売を行っている。また、観光パンフレット・ガイドマップ・イベントチラシを配架中。
32	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	青谷高等学校のあり方を考える協議会（青谷高等学校活性化を支援する会）	青谷高校の入学者数の増加・存続	協議会・地域	平成26年12月に「青谷高等学校のあり方を考える協議会」を設立し、青谷高等学校の存続に向け取り組んできた。平成28年3月に「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針で『特色ある取り組みを推進する学校の存続に最大限努力する』に基づき、平成29年9月27日に「青谷高等学校のあり方を考える協議会」を解散し、新たに「青谷高等学校活性化を支援する会」を設立し、地域と青谷高等学校が連携した取組を行う。	青谷高等学校活性化を支援する会は、「地域連携部会」と「卓球部会」の専門部会を設置。 地域連携部会：青谷学等に地域資源や人材を活用した教育活動の支援を行う 卓球部会：青谷高校の伝統である卓球を活用した取り組みや「」卓球のまち　青谷復活のための活動を行う。 青谷高校生の地域イベントへの参画を図ったり、情報発信として青谷高校の取り組み等を『青谷町総合支所だより』で紹介する。	平成29年度　青谷高等学校活性化を支援する会を1回、「地域連携部会」2回、「卓球部会」2回開催。 青谷高校卓球部員による卓球教室、青谷学への地域資源や人材の紹介を行った。また平成30年3月18日開催の、吹奏楽部演奏会開催について協力した。 平成30年度　青谷高等学校活性化を支援する会（8/5青谷高等学校訪問）、「地域連携部会」（8/34）、「卓球部会」（4/26）開催。 また、出前県議会（11/22）、青谷学発表会の開催（12/14）について協力した。 令和元年度　青谷高等学校活性化を支援する会（10/1）、「地域連携部会」（6/8）、「卓球部会」（6/27）（8/1）開催。
33	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	青谷高校生卓球部員による卓球教室	参加者：200人	青谷高校・協議会	「卓球のまち青谷」の地域活性化と鳥取県内スポーツ振興とスポーツ精神の高揚を図ることを目的に、青谷高校生卓球部員が主体となり、インターハイ出場経験選手や社会人リーグで活躍中の選手である青谷高等学校卓球部OGやOBの豊富な人材を指導者として平成27年度から「青谷高校生による卓球教室」を実施。	青谷高校の魅力アップのため、卓球部員による卓球教室の開催。 　指導者：青谷高校卓球部員、青谷高校卓球部OB・OG 　対象者：小中学生、一般、 　内容等：レベルに合わせたきめ細かな卓球指導とし、個別指導を行う他、参加者からの要望に応えた形で指導を行う。	平成27年度　8月23日（日）開催　参加者　90人　指導者30人 平成28年度　9月18日（日）開催　参加者　70人　指導者40人 平成29年度　8月27日（日）開催　参加者　100人　指導者40人 （平成30年度　7月29日（日）開催予定であったが、台風12号接近により中止。） 令和元年度　9月28日（土）開催　　参加者　77人 指導者45人
34	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	青谷オープン卓球	参加者：500人	県卓球連盟	「卓球のまち青谷」の地域活性化と鳥取県内スポーツ振興とスポーツ精神の高揚を図ることを目的に、近県の中学校卓球部参加により男女別の団体戦を行う。	中国5県及び鳥取市姉妹都市姫路市、交流都市池田市の中体連卓球専門委員長へ各県や市の代表として青谷オープン卓球へ出場チームを決定。男女とも12チームで団体戦を行う。青谷高校卓球部や青谷高校卓球部OB・OGを大会競技役員とし、地域をあげて大会に係わる。 また、大会開催中に有名選手による卓球講習会を実施するなど、オープン卓球大会の充実を図る。 「卓球のまち青谷」の復活と審判等青谷高校卓球部の活躍の場を設定する。	平成27年度　男子12チーム、女子9チーム参加。卓球講習会講師：元世界チャンピオン　小野誠治さん、元オリンピック代表選手　仲村錦次郎さん 平成28年度　男子12チーム、女子11チーム参加。卓球講習会講師：元オリンピック代表選手　仲村錦次郎さん、TSP所属選手：尾留川竜希さん 平成29年度　男子11チーム、女子9チーム参加。講習会講師：元オリンピック代表選手仲村錦治郎さん、庄司達也さん 平成30年度　男子11チーム、女子9チーム参加。講習会講師：元オリンピック代表選手仲村錦治郎さん、野坂大輔さん 令和元年度　男子11チーム、女子9チーム参加。講習会講師：元実業団選手天野優さん、牛谷有一さん
35	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	国際交流の推進	交流事業の参加者：300人	青谷高校	交流都市として友好を深めている中国太倉市から明徳高等学校の生徒等、青谷高校と長年交流のある韓国から居昌中央高等学校の生徒等を招致し、地域資源を活かし、地域とのふれあい・体験の場を提供して、地域住民とも関わりながら友好交流を深めている。	韓国から高校生を受け入れ、周辺地域の視察を行いながら、若者同士の交流を図る。	平成28年度は、韓国5人と中国5人の生徒等を招致。青谷高校からの要望により、シンポジウムから授業交流を中心とした事業を実施。 平成29年度は、韓国居昌中央高等学校との相互訪問等による学校間交流を実施した。 平成30年度は、引き続き韓国居昌中央高等学校との学校間交流を行った。（県事業予算による実施） 令和元年度の青谷高校と韓国居昌中央高校との交流は中止。（韓国側からの申し出による）

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
36	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	ボランティア活動	参加生徒数：１００人	青谷高校・地域	平成27年度は、ボランティアとして、菖蒲綱引きや卓球教室への参加、青谷駅清掃、全国鳴り砂サミットや青谷ようこそまつりなどたくさんの地域行事等に青谷高校生が参加し、地域との関わりを深めている。	青谷地域をはじめ、鳥取市西部地域の各行事等への青谷高校生の積極的な参加により、地域とのつながりを深めていく。 地域イベントなどへボランティアとして参加していることを広報的に情報発信していくことにより、青谷高校生が社会の一員として参加していることを地域住民などへ広く知らせる。	令和元年度の主なボランティア活動 青谷まつり（4/28）、青谷菖蒲綱引き(前町、赤尾谷）（6/2）、 青谷海岸清掃（6/13） 浜村駅前足湯清掃（7/16） あおいちボランティア　6回（6/2, 7/7、8/4, 9/1, 10/6, 12/15） 支所だよりでの広報：青谷高校の情報発信として、支所だよりで広報（4月号、6月号、8月号、10月号、12月号）
37	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	青谷学の開催・協力	授業開催：２回/週	青谷高校・地域	青谷高校と連絡を密にし、地域や支所が協力して取り組んでいる。	「青谷学」の充実に向け、青谷町総合支所としても青谷地域住民等との関わり強化に協力していきたい。	平成29年度より「青谷学」を2年生の授業の必須科目とし、地域への理解と関心を深めるカリキュラムのアドバイスを地域住民が行う。 平成30年度　青谷学の「青谷木綿の復活！」「魚食の促進」等の8つの課題探究の取り組みに協力した。また12月14日の課題探究成果発表会場として青谷町総合支所で開催の協力を行った。 令和元年度　課題探究の研究成果を実践するために「あおこうまるしぇ」を青谷町総合支所で開催。 青谷高校と地域が連携した事業等　〇巨大灯篭修繕復活し、JR青谷駅前に9月3日に再設置。〇高校生が将来に対する目標を考える教育プログラム「高校生だっぴ」を地域の大人を交えて9月12日青谷高校で開催。
38	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	4. 青谷高等学校の特色ある取り組み	青谷高等学校魅力アップ	文科系部活動のPR	美術部・書道部等の作品の通路展示	青谷高校	演劇部・吹奏楽部を含む文科系部活動は、体育系部活動と比較して、発表する機会が少ないこともあり、活動していることも対外的に知られてなく、部員も少ない状況である。	高校生の部活動への取組み等を相互理解することにより、地域の中における青谷高校の存在意義も充実する。	青谷高校生の作品展は、あおや郷土館で開催している。今後は、他の場所での開催も検討していく。平成29年度は、青谷町総合支所多目的ホールで青谷高等学校吹奏学部演奏会を開催
39	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	池田市との交流促進	池田市イベントへの参加	参加イベント：3回（青谷物産の販売）	農業公社・民間団体	ようこそ館が中心となり池田市民カーニバル、池田市農業祭等に参加し、特産品の販売、PRを行っている。	8月　池田市民カーニバルに参加し、青谷特産物の販売、PRを行う。（ようこそ館職員、青谷支所職員） 10月　池田市商業祭に参加し、青谷農産物販売、PRを行う。（ようこそ館職員、青谷支所職員） 11月　池田市農業祭に参加し、青谷農産物販売、PRを行う。（ようこそ館職員、農業者） 池田市を通した販路の拡大を行う。（ようこそ館）	令和元年度は、8月池田市民カーニバルに参加し、青谷特産物の販売、PRを行った。（ようこそ館職員、青谷支所職員） 10月には池田市商業祭に参加し、青谷の特産品と農産物の販売、PRを行った。（ようこそ館職員、青谷支所職員） 11月には池田市農業祭に参加し、青谷の農産物と特産品の販売、PRを行った。（ようこそ館職員、青谷支所職員、農業者） 池田市に紹介いただいたダイハツ工業生活協同組合等との特産物の販売、取引を行っている。
40	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	ダイキンアレスとの交流促進	（納涼祭への参加）	青谷物産の販売	農業公社・民間団体	JA青谷支店が中心となってダイキン工業納涼祭（大阪）に参加し、特産品の販売、PRを行っている。	8月　ダイキン工業納涼祭（大阪）に参加し、特産品の販売、PRを行う。（JA青谷支店職員）	令和元年度8月には、ダイキン工業納涼祭（大阪）にJA青谷支店が出店し、梨を中心に特産物の販売、PRを行った。
41	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	ダイキンアレスとの交流促進	関連企業への販路開拓	青谷物産の販売	農業公社	ダイキンアレス朝市にかちべ伝承館、ようこそ館が出店し、農産物等の販売を行っている。また、ダイキン工業納涼祭にJA青谷支店が参加し、農産物の販売を行っている。	ダイキンアレス朝市に出店し、青谷特産物の販売、PRを行う。（かちべ伝承館、ようこそ館、農業者） ダイキンアレスを通じて販路開拓を行う。 時期：5月連休、8月盆休、年末年始休のころ	ダイキンアレス朝市にゴールデンウィーク、夏期期間、かちべ伝承館、ようこそ館等が出店し、宿泊、利用者に農産物等の販売、PRを行った。 年末年始の期間に開催される朝市に販売、PRを行った。
42	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5. 地域経済における人材還流と育成強化	青谷町出身者の知的財産の活用	県内外で活躍する青谷町出身者、ゆかりのある方の発掘、作品等を紹介する機会を継続的に実施する	人物や作品等を紹介する機会を通して伝承に繋げ、触れることによる教育普及及び紹介冊子の作成	あおや郷土館	あおや郷土館では、青谷町にかかわる芸術作品の情報を収集し、定期的に展覧会等を実施している。 青谷中学校では、青谷町出身の著名人等を招聘し、講演してもらっている。	県内外で活躍している青谷町出身者の把握を行うとともに、中学校の同窓会等を利用して、情報の収集に努める。	あおや郷土館では、青谷町にゆかりのある著名人の芸術作品を展示するほか、鳥取市西部地域で活躍する作家等の展覧会、青谷町文化協議会の作品展示等を随時実施している。このような事業の中で、多方面で活躍している青谷ゆかりの人々の情報を収集している。

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
43	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5．地域経済における人材還流と育成強化	空家の活用及び移住定住の促進	移住定住空家運営業務委託（空家調査等） 空家・遊休施設の活用（ギャラリー、ゲストハウス等）	空家・遊休施設（店舗等）の活用10ヵ所 空家の詳細を動画でネット配信	NPO	平成27年10月から、地元の「N.P.O　BFOじげ」が鳥取市空き家運営業務を実施し、移住定住に向けて取り組んでいる。お試し定住体験施設の運営も前向きに検討中である。	現在実施中の委託業務がスムーズに進むよう連絡調整を行う。 空き家の詳細ネット配信について、平成30年度は動画配信を実施できるよう働きかけ・協力を行う。 移住定住成果についてネット上でPRしていく。 移住定住だけではなく、ギャラリーやゲストハウス等の活用を推進する。	定住実績 平成29年度　1件、平成30年度　0件、令和元年度　1件。 空き家の登録は順調（R2．3月末　現在6軒）であるが、建物の状態が良好な物件は少なく、引き続き登録を推進していく。
44	Ⅱ　地域資源を活かした“まちの魅力づくり”	5．地域経済における人材還流と育成強化	他地域の素材との連携	例：子守神社の磨き上げ、白兎神社や八上姫とのストーリー作りなど	新たな観光ルートの可能性の検討	旅行会社・行政	子守神社は一部には知られているものの、その神秘的な魅力が活かされていない。 石碑や石工川六の石造物作品など、PRすべき地域資源は多い。	「白兎神社＝縁結び　子守神社＝子育て」の組み合わせでの魅力発信を検討する。 大国主命、八上姫に縁のある長尾鼻の伝説や二人をまつる潮津神社などをつなぐ。 川六作品の探索コースを設定する。これらの資源を商品として売り出す可能性を調査研究する。	平成29年度から企画ツアーGバスが西部地域を運行。 平成30年度は3月に2回、令和元年度は9回運行。 令和2年度は予定なし。
45	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	1．自主防災組織等の充実と連携	自主防災組織の体制整備と連携強化	体制整備と連携	全集落で体制整備	地域	平成29年度に望町に自主防災会が結成され、町内すべての集落に自主防災会ができた。 近年の台風、地震等による災害の発生を受け、住民の防災意識が高まりつつあり、各自治会の自主防災会で避難訓練や防災講習の実施に取り組むところが増えてきている。	各自主防災会は、鳥取市自主防災会連合会に属し、連合会組織のもとで活動している。その活動を行う上で、連合会から各種助成があり、これらを活用しながら活動を進める。特に、消火訓練、放水訓練、避難訓練、防災講習会、救急講習会などを年間計画に取り入れて活動を行う。	●鳥取市自主防災会連合会の助成の状況 青谷町助成実績： 平成27年度26防災会、2地区 平成28年度26防災会、3地区 平成29年度34防災会、3地区 ※望町防災会立上げにより全集落が防災会加入 平成30年度29防災会、4地区 令和元年度27防災会、4地区 ●令和元年度：5地区で自主防災会長研修会を実施
46	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	1．自主防災組織等の充実と連携	避難行動要支援者支援制度への登録啓発	全地区での取り組み強化・制度の啓発と地域との連携	登録集落：全集落	地域	・青谷地域では平成21年度から取り組み始め、全ての地区で取り組んでいる。 ・平成27年4月1日時点の登録集落31、登録者数は270人。	・制度の内容理解促進。 ・登録促進啓発。 ・青谷町自治連合会研修会での制度説明を実施。 ・民生委員へ制度説明と担当地区啓発を依頼。	・例年3月に各区長へ制度説明を行うとともに、制度周知・登録勧奨の取り組みを依頼している。 ・地区座談会、青谷町自治連合会研修会等の機会を捉えながら、制度周知、登録促進等を図っている。 ・令和2年3月31日時点の登録者数は367人。
47	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	1．自主防災組織等の充実と連携	ひとり暮らしの高齢者世帯へ「安心ホットライン」設置の啓発	事業説明と周知	全集落で体制整備	地域	平成27年4月1日時点の設置件数は38件。	①青谷町自治連合会総会・研修会、地区座談会において設置啓発を進めていく。 ②民生児童委員会で説明し、それぞれの地域へ声かけを進めていただく。 ③各地区、集落等で要請があれば説明会を開催し、本事業の推進を図る。	①各種研修会等を通じて、各地区へ取り組みを依頼。 ②民生委員へも本事業を説明し、それぞれ担当地区での啓発を依頼。 ③令和2年3月31日時点の設置件数は27件。（新規登録：平成27年度7件、平成28年度5件、平成29年度0件、平成30年度2件、令和元年度0件　合計14件）
48	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	2．生活に必要な利便性の確保	地域バスの運行対策	地域独自バス運行	オンデマンド方式の可能性の検討	民間・NPO	青谷地域のバス利用者は主に小学生であり、地域住民の利用はほとんどなく、赤字が継続している。今後の運行に向けた整理が必要である。	青谷に適した方法の検討を行う。	令和元年度 10月31日　鳥取市生活交通創生ビジョン策定に向けた意見交換会 公共交通の現状と課題について各地区で説明等を行った。 1月19日：勝部を語る会　　2月15日：日置を語る会 2月16日：日置谷を良くする会　　3月　5日：青谷地区まちづくり協議会総会
49	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	2．生活に必要な利便性の確保	買い物支援対策	実態調査	可能性の検討	民間・NPO	現在は、JA鳥取いなばグループのトスク㈱が鳥取市内で移動販売を実施している。青谷地域では、日置・勝部地区を中心に運行されている。	この移動販売以外にも買い物支援が必要なのか、今後検討していく。	平成29年度から買い物福祉サービス見守り活動の導入：青谷23世帯申込済

ID	大項目	項目	施策	内容	目標	実施主体	現状	具体的実施計画	進捗状況
50	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	3．結婚・出産・子育て支援	子育て世代グループの活動支援	すくすく保育園で開設している子育て支援センター参加の保護者を中心としたグループの立ち上げ・高齢者との世代間交流	現在使用していない第2園舎の活用を含めた、可能性の検討	市民・団体・行政	第2園舎は子育て支援センターがあり、以前から使用している。 少子高齢化により園児数が減少し、第2園舎の使用していない部屋が多い。	保育園、市民福祉課、地域振興課、教育委員会分室、各地区公民館等、市の関係機関において、サークルの運営を支援するとともに、他地区についてもサークルの立上げを視野に入れながら保護者等に情報提供を行う。	平成29年3月、青谷地区公民館の自主的サークルとして「こっこちゃんクラブ」が設立。会員は、青谷町内外の住民で、0歳～1歳までの子と母約20名。月1回第1水曜日に活動。情報交換や、青谷地区公民館の事業に参加。令和元年度、保育園との交流を1回実施。 令和元年度、「こっこちゃんクラブ」とは別に、小さな子どもを持つ親の居場所づくりに取組中。令和2年2月2日に第1回イベントを開催。
51	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる“まちづくり”	3．結婚・出産・子育て支援	独身の会の立ち上げ	青谷地域で会を立ち上げ、活動を通した交流機会の創出	可能性の検討	市民・団体	独身者の出会いが少ない。	青谷地域の独身者に呼びかけ、地域独自の交流会を検討する。	鳥取市西商工会が県内外の独身男女を募集し、西いなば施設での観光体験と婚活を組み合わせた事業を令和2年3月1日実施し、12人参加
52	Ⅲ　誰もが活き活きと安心して暮らせる”まちづくり”	4．高齢者・障がい者等を地域で見守り支え合うネットワークづくり	認知症高齢者等を支える地域づくり	他団体連携・各健康教育等の実践及び啓発	町全体に啓発・支援の実施	地域・行政	青谷町では、高齢化率の急速な増大（H29年7月現在39.5%[全市27.5%]）により、ますます認知症高齢者数の増加が見込まれている。介護（認知症）予防として重要な、生活習慣病の改善や健康的なライフスタイルの構築、精神的健康問題の改善の認識が、勤労者(家族介護者）世代にも拡充が必要である。 このような現状の中で、青谷地域振興会議より、青谷町における認知症施策拡充における提案があり、それらを踏まえて「認知症を支える地域づくりを青谷町全域で」を鳥取西地域包括支援センターとの連携により、具体的実施計画を作成し推進していくこととする。	1.認知症への理解を深めるための啓発・実践 ①地区座談会において啓発チラシ配布 ②地区健康教育による認知症予防・啓発の推進 ③市社会福祉協議会と協力し、青谷町における認知症予防・ケア支援事業等の案内チラシを作成・毎年度更新予定 ④青谷町健康づくり地区推進員会、民間支援団体や施設と連携し、支援事業を実施 2.認知症の早期発見・早期診断に繋げるための支援 青谷町健康づくり地区推進員会と協力して、もの忘れ相談プログラム(タッチパネル）等を活用した相談会の開催 3.鳥取西包括支援センターとの連携	1.①各地区の健康教育実施時、認知症・介護予防を含めた講話等を実施。 ②社協と協力し、認知症カフェや介護予防出前講座の問い合わせ窓口を明記したチラシを毎年更新し配布。併せて、保健師による認知症・介護予防に関する健康教育が受けやすい環境整備。 ③今年度も、特別養護老人ホーム主催、青谷町健康づくり地区推進会（以下健推）後援で、各地区公民館を会場に介護予防イベント実施。 2.認知症を含めた要介護状態を予防するため、健推等と協力し、健康講演会や、あおいちの際の「ロコモチェック（運動機能低下チェック）」、その他しゃんしゃん体操啓発　（コグニサイズ含む）を実施。 3.鳥取西包括支援センター（以下西包括）とも引き続き連携しながら、地域包括ケアシステムを活用した支援や、システムの周知を含む体制強化等に関する取組を実施。　今年度は、西包括の協力を得ながら、勝部地区の人権小地域懇談会で「認知症の話」を実施。 4.8050問題（50代の中高年のひきこもりの子を80代の後期高齢者の親が面倒を見るケース）への対応として、相談機能を備えた居場所づくりについて、地域住民と実施に向けて取組み、令和2年2月に居場所を運営する「ふわっとカフェの会」を立ち上げ、3月27日にプレオープン。4月から月2回実施予定。